

炭そ病抵抗性イチゴ品種「サンチーゴ」の栽培管理技術							
<p>[要約] 高温期にみられるランナーの先端が変色、枯死する症状は、親株への多かん水により発生率は減少する。苗の葉柄中の硝酸態窒素濃度は、ランナー切断後4週目においても高い状態が続き、花芽分化は「女峰」より5日程度遅れる。無機成分の吸収量は「女峰」より高く、基肥は慣行より減肥し、生育に応じて追肥で調整する。</p>							
三重県科学技術振興センター・農業技術センター・園芸グループ					連絡先	05984-2-6358	
部会名	野菜・花き	専門	栽培	対象	果菜類	分類	指導

[背景・ねらい]

農業技術センターでは、炭そ病抵抗性を持つ促成栽培用新品種「サンチーゴ」を開発し、平成11年3月に品種登録を出願した。現在、県下で普及しつつあるため、品種特性に応じた栽培管理技術を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 高温期の親株床でランナーの先端が黒褐色に変色、枯死する症状（仮称：先焼け症）がみられる。先焼け症の発生率は、親株への少かん水で増加し、多かん水により減少する（表1）。
2. 根部形態については、細根の新鮮重は「サンチーゴ」と「女峰」には差がないが、主根は「サンチーゴ」が「女峰」よりも重い（表2）。
3. ランナー切断後の苗の葉柄中の硝酸態窒素濃度は、4週目で「女峰」では低下するが、「サンチーゴ」では高い状態が続き（図1）、花芽分化は通常のポット育苗では、「女峰」よりも5日程度遅れる（表3）。
4. 無機成分の吸収量は、「サンチーゴ」は「女峰」より全窒素が高い（表4）。PQ、K₂O、CaO、MgOについても同様の傾向を示す。また、定植後1ヶ月の生育は緩慢であるが、その後は生育が旺盛になる（図2）。そのため、施肥においては、基肥は慣行より減肥し、生育に応じて追肥で調整する。

[成果の活用面・留意点]

1. 萎黄病には罹病性であるので、親株床は必ず土壤消毒をする。
2. 空洞果の発生を抑えるため多肥を避ける。
3. 花芽分化前に定植すると大幅に出蕾が遅れ、年内に収穫ができなくなるため、定植は必ず花芽分化確認後に行う。

[具体的データ]

表1 「サンチーゴ」の親株へのかん水量と全ランナー数、先焼け症発生率との関係

区	全ランナー数 (本)			先焼け症発生率 (%)		
	15日目	21日目	30日目	15日目	21日目	30日目
多かん水	12.8	17.2	19.4	29.7	22.1	21.1
少かん水	13.0	14.0	16.6	43.1	51.4	61.5
	ns	ns	ns	ns	ns	*

*5%水準で有意、全ランナー数:主ランナーから分枝したランナーも含めた数
先焼け症発生率:先焼け数/全ランナー数×100(%)

表2 主根と細根の根重

品種	苗施肥量 (mg/株)	主根新鮮重 (g)	細根新鮮重 (g)
サンチーゴ N240		1.79a	3.47a
サンチーゴ N120		1.56a	3.86a
女峰 N240		1.11b	3.81a
女峰 N120		1.16b	4.39a

**異符号間に5%水準で有意差あり
ランナー切り離し後4週目調査

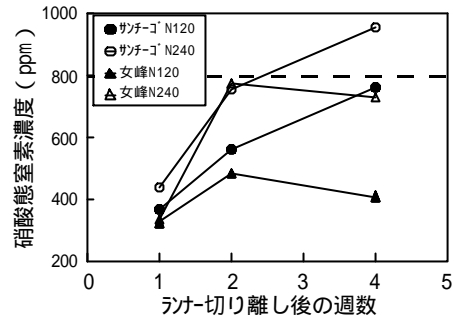


図1 葉柄中硝酸態窒素濃度

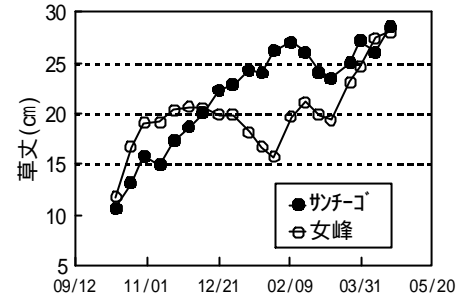


図2 草丈の推移

表3 「サンチーゴ」の定植時の葉柄中窒素濃度と花芽分化程度及び生育状態

	9/10調査・定植					9/20調査・定植				
	N中	N中	N中	N中	N中	N中	N中	N中	N中	N中
N03-N (ppm)	3.39	2.94	21.9	162.7	284.8	0	1.36	18.8	29.4	41.1
花芽分化	---	+-	---	---	---	+++	++++	++++	++++	++++
クラウ径 (mm)						11.6	11.2	10.1	9.04	8.95
生重量 (g)						37.1	34.6	37.6	34.7	29.0

N中断開始時期: N中 : 8/10、N中 : 8/20、N中 : 8/30、N中 : 9/10、N中 : 9/20
花芽分化確認(+)未確認(-)。N03-NはRQフレックスで展開第3葉の葉柄搾汁液を測定。「女峰」慣行区は9/15に分化した。
N中断開始1ヶ月前にランナーから切り離し、固形肥料2錠を施肥した。

表4 「サンチーゴ」の無機成分吸収量

時期	品種	部位	全N (mg/株)	比 ¹ (%)	P ₂ O ₅ (mg/株)	比 (%)	K ₂ O (mg/株)	比 (%)	CaO (mg/株)	比 (%)	MgO (mg/株)	比 (%)
11月17日	女峰	葉・クラウ	200	100	98	100	230	100	124	100	65	100
		サンチーゴ 葉・クラウ	223	112	124	127	239	104	187	151	88	135
12月21日	女峰	葉・クラウ	283	100	140	100	303	100	222	100	94	100
		果梗・果実	112	100	73	100	180	100	22	100	25	100
	地上部全体		395	100	213	100	483	100	249	100	119	100
	サンチーゴ	葉・クラウ	282	100	203	145	279	92	289	130	125	133
果梗・果実		128	114	109	149	219	122	44	200	34	136	
地上部全体		410	104	312	146	498	103	333	138	159	134	

*1: 対「女峰」比率

[その他]

研究課題名: 野菜新品種の地域適応性技術の開発
予算区分: 県単
研究期間: 平成12年度(平成9~11年)
研究担当者: 田中 一久, 戸谷 孝